自宅で取得できる！
通信教育
校正技能士
（文部科学省認定）
校正特技を身につけて、マスコミ出版界で活躍！
編集・校正の技能を身につけたい方、興味のある方、マスコミ出版界を希望の方に！
我が国は、アメリカについで世界第2位の出版国ですが、特にこの10年間の印刷量の伸びはめざましいものがあります。印刷物の増加や質に比例して校正者の需要はますます増大、むしろ不足ぎみです。ただいま、文部省認定講座を開講中。
資料の請求は、八方キで下記へ！無料
無理！
★資料は完全無料でお送りします！
〒160 東京都新宿区大京町4の28
（財）実務教育研究所 校正部
☎03(3357)8153

『石の花』
坂口尚 講談社漫画文庫
『単一民族神話の起源〈日本人〉の自画像の系譜』
小熊英二 新曜社

神戸事件で流れた臆測

この事件は日本中に大きな衝撃を与えた。残忍な方法で一人の殺人集団が、やすやすと逃げおおせたのである。犯人が中学生であることがわかり、衝撃はさらに大きくなった。

その陰にかすんでしまったが、犯人がまだ判明しない段階でマスコミ関係者の不見識さがわざわせる情報が流れた。犯人は在日朝鮮人らしい、というのである。挑戦状にあった「国籍がない存在」という一節が臆測の根拠であった。

私もこの臆測についての見解を求められたことがあったが、もちろん論下にそれを否定した。民族意識に多い被差別民族性意識を探るからではない。むしろ被差別民族には差別されているが故に犯罪への怒りは正当な憤りの形になりえず暴発することも多い。しかし、この挑戦状を読む限り、犯人が在日朝鮮人である可能性はゼロに近い。

まず第一に、この文章には被差別民族の憤念のようなものが感じられない。自分が被差別民族であったら、こんな挑戦状を書くだろうか。これは想像力の問題である。

第二に、知識の問題である。想像力というような抽象的な問題ではなく、具体的な知識の問題である。挑戦状には「国籍がない」と書いてある。しかし、在日朝鮮人には国籍がある。北朝鮮か韓国籍かの国籍がある。北朝鮮か韓国籍かの国籍がある。帰化した人は既に在日朝鮮人ではなく、国籍はむろん日本である。「国籍がない」というのは、それだけで在日朝鮮人ではない混乱のようなものだ。

マスコミの正義は、しばしばこのような想像力と知識の欠如の上に成り立っている。

単一民族説は進歩的か保守的か

日本人は単一民族であるという人がいる。いや、単一民族ではないという人がいる。この二つの主張のうち、どちらが進歩的でどちらが保守的だろうか。たいていの人は、単一民族説が保守的で混合民族説が進歩的だと思うだろう。マスコミでもそのように色分けをしている。しかし、それは本当だろうか。これもまた無知の上に成立した根拠のない臆説かもしれない。

一九九五年に出た『単一民族神話の起源』で、著者の小熊英二はこの臆説を大全に覆してゆく。冒頭で小熊はこんな文章を引用する。

「大日本帝国は単一民族の国家でもなく、民族主義の国でもない。否、日本はその構成員未単純な民族主義の国ではない」

「日本民族はもとより単一民族として成立したものではない。上代においていはゆる先住民族や大陸方面からの帰化人がこれに混融同化し……」

呉智英の

この二つの文章は大東亜戦争下の一九四二年に発表されたものであり、特に後者は文部省社会教育局発行の本の一節である。ナショナリズムが高揚し歪んだショーヴィニズムにまでなった戦時中、混合民族説が唱えられていたのだ。

戦後になって、単一民族説が保守的、混合民族説が進歩的とされるようになり、我々はこの構図の上に民族に関する認識を組み立てている。しかし、この構図自体を疑ってみなくてはなるまい。日本はこれからの日本民族論の基本文献の一つとなるはずである。昨年、サントリー学芸賞を受賞している。

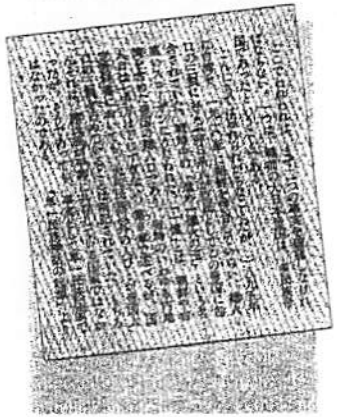
ボスニアの戦乱を予見した長篇

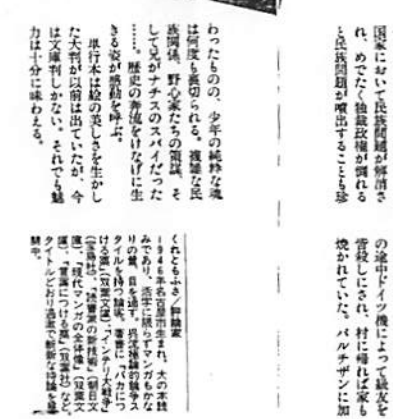
英語ではその使い分けが不分明であるように、民族は近代国家において不可欠の構成要素である。近代国家成立時に民族主義は大きな役割りを果たしながら、国家成立の後は民族主義は国家統合に敵しかねない、強力な脱臼国家において民族問題が解消され、めでたく独裁政権が誕生するか民族問題が噴出するかしかない。前項で述べた旧社会主義国、とりわけユーゴスラビアの後身であるボスニアの戦乱は、ようやく収まったとはいえ、民族問題が一筋縄ではいかない好例として記憶に新しい。

ボスニアのような長篇マンガがある。坂口尚『石の花』だ。『コミック・トム』に一九八二年から二年間連載された『石の花』は、月刊誌ベースならではの構成の緻密さと描写の美しさで評価が高い作品である。

舞台は、一九四一年のユーゴスラビア。西の方からナチスドイツが侵攻してきた、平和な村はたちまち戦火に焼き払われることになる。侵略者と民族者——こんな構図ができあがるのなら、まだしも幸福であった。しかし、ユーゴには、五つの民族が住み、四つの言語があり、三つの宗教がある。二つの文字が使われている。その他に共産主義者がいる。ユダヤ人もいる。これらの勢力が複雑にからみ合い、入り組んだ抵抗運動が組織される。主人公はクリロ、貧しい豊味の少年時代を持つ少年である。彼は雪の途中ドイツ機によって最愛の家族を殺され、村に帰れば家も焼かれていた。パルチザンに加わったものの、少年の純粋な魂は何度も裏切られる。複雑な民族関係、野心家たちの策謀、そして兄がナチスのスパイだった……。歴史の奔流をかりなけに生きる姿が感動を呼ぶ。

単行本は絵の美しさを生かした大判が以前は出ていたが、今は文庫判しかない。それでも魅力は十分に味わえる。





「石の花」全5巻
坂口尚
講談社漫画文庫 各583円

「単一民族神話の起源〈日本人〉の自画像の系譜」
小熊英二
新曜社 3800円